

有料職業紹介 訪問介護 通所介護 宅老&託児 E-mail ホームページ
 つしま紹介所 (0567)26-1281 ナイス・ケア (0567)26-3699 ナイス・デイ (0567)26-1282 ナイス・ホーム (0567)26-1282
 info@s-o-s.co.jp http://www.s-o-s.co.jp
 (有)サポート・ワン・サービス 愛知県津島市愛宕町4-113 〒496-0036
 代表TEL:(0567)26-3921/FAX:(0567)26-3922

vol. 63 (平成17年11月09日発行)

鑑賞の秋？ 食欲の秋？



女に産まれたからには、一度やってみたかった。お花畑の女の子



秋桜に囲まれて..

朝晩は冷え込みが厳しくなりましたが、日中は天気の良い日が多いですね。外で日向ぼっこして過ごしたり、秋桜畑や菊人形の展示で鑑賞の秋を楽しんだり、採りたての枝豆を食べるために枝豆取りを皆で行い、食欲の秋として食べる楽しみを準備の時点から楽しむなど、日々、それぞれの出来ることをしながら、元気に過ごしていますよ



木曾三川公園の秋桜畑にお出掛けしたよ

ナイス・デイ利用状況(定期利用者数)

月	火	水	木	金	土	日
10名	8名	10名	8名	9名	8名	10名

ナイスな勉強会・・・「ヘルパーにもできる(?)医療行為」

平成17年4月以降、医療行為から除外された行為=ヘルパーが行っても良い(?)行為が発表されました。体温計を使用した体温測定・自動血圧測定器による血圧測定・切り傷やすり傷やけどの処置、その他、軟膏の塗布・点眼・一包化されている薬の服薬・座薬の挿入・つめのケア・耳垢の除去等、生活する中で必要不可欠な内容が多く、医療行為としなくてもよいだろう・・・と考えられることが多いようです。

今回は、その中のひとつ、「つめのケア」を実習してみましょう。」ということになりました。

案外、自分のつめを切っている習慣からか、つめを切ることで簡単だと安易に考えている方もみえると思います。しかし、子育てを経験したスタッフが、子供のつめを切ったことがあったとしても全く(?)というほど良いほど参考にはならず・・・。

実習をしてみると、まずは、「どれくらいの長さだったらつめが伸びていると感じるか」の感覚の違いを感じました。

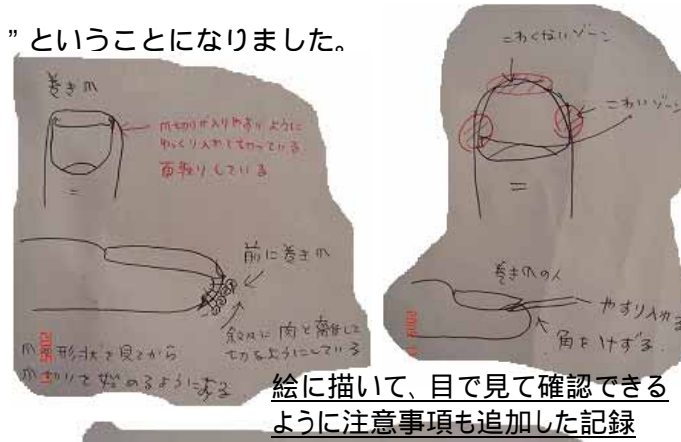
実際に行ってみると、つめを切るために支える手足の保持のしかたから、切る側になった者の視力の問題まで、実習するとおもしろいようにスタッフ各自の習慣や特徴、そして、切られる側の者が感じる、「誰かにつめを切ってもらおうことの恐ろしさ」「汚いのに申し訳ない」という気持ちが良くわかりました。

その場で意見としてよく出たのが「巻きつめの対処法に困る」という内容。

基本を知りたいね!という流れになり、参考資料を探してみると「巻き爪は角を残してスクエア型につめを伸ばす・・・」というような説明がしてあるものが多くありました。また、スタッフ自身が巻きつめのため病院にかかったときも医師から同じことを言われた経験があるとの話でした。しかし、本音は「角を切らないと痛くて歩くときに支障があるんだけど・・・ね。」との言葉もあり思わず考え込んでしまいました。

たかが爪きり、されど爪きり、スタッフ全員が簡単(安易)に行えるものではなく、やはり何度も実習を行い、利用者さんに安心してもらえる技術を身につけなくちゃいけないのだと改めて感じさせられました。

次回・・・「続:ヘルパーにもできる(?)医療行為」



絵に描いて、目で見て確認できるように注意事項も追加した記録

私のおかあさん ~ 第11章 ~

注:このコーナーに掲載される話はスタッフの家族の実話です。

現在の私の兄弟は、養子にでた長男が60歳でなくなってしまったため6人になってしまっている。姉(長女)は、遠方で一人暮らし。そのため、直接的におかあさんの世話はできないが、電話や手紙・手作りの衣類などをおかあさんや私たちにも送ってくれる。

また、次女は、妹家族がご主人の実家や旅行に出掛けるときなどに妹の家に泊まり込み、妹に代わりにおかあさんの日常の世話をすることになっている。

三女の私は、泊まりはできないが、一ヶ月に2~3日程は顔を出し、散歩・買い物・入浴の手伝いなど、少しでも妹の時間が取れるようにと考えている。

兄達(次男・三男)に変化があった。今までは、盆と正月くらいにしか顔を出さなかったが、最近ではちょくちょくと顔をだすようになってきた。

少し前になるが、兄達は、姉と妹とおかあさんを連れて、昔住んでいた岐阜へ出掛けたと話を聞いた。

おかあさんは、「あそこには があった。この家には さんが住んでいた。」「そうそう、ここで していたんだよ。」など、兄が感心するくらい鮮明に覚えていたらしい。

兄は、その時の様子を思い出したのか、こんなに喜んでくれるのなら・・・と、先日、次に住んでいた名古屋に出掛けることを企画。今度は私も一緒に出掛けることができた。

まだ私も生まれていないときの話も沢山聞けた。

実際に色々な場所をまわりながら、次々と出てくる話に、「へえ～、そんな風だったんだねえ。」と、他の兄弟同様、私も思わず感心した。

小さな頃のことが話に出てくると、「そんなことがあったっけ・・・?」と皆で笑いながら思い出話に花が咲いた。

この小旅行のおかげで、おかあさんへの、いいえ、家族皆で過ごすことの大切さ・尊さに改めて気付かされたと感じつつ、親兄弟と笑いながら過ごせる時間を少しでも多く持ちたいな・・・と考えている今日この頃。私も歳をとったということかな・・・と感じている。



ナイスな手作業

～ ふくろう ～

散歩がてら、近くの用水沿いに自生しているススキを取ってきて、チャチャッと作って大好評でした。かわいいでしょ。



心に残る “あの人の一言”

◆ 掃除の後に、『きれいになったね』と利用者さんに声かけられたので、調子にのって「ピカピカになったでしょ!？」と答えた直後、『うちってそんなに汚かった??? (怒)』(調子にのって言い過ぎました・・・スママセン。)

◆ 『明日死んでしまうかも分かって言っておくわ。今まで世話になったね、ありがとう。』(次の訪問まで気が気じゃなかったですよ。)

◆ もの忘れしたとき、『私もボケてきちゃったかなあ。』と話していると、『わしと一緒にだなあ』と慰めてくれた。

◆ 『あんたんとこ、電話番号変わらんよね!』『なんで?』『困ったら来てほしいで覚えたけど、番号が変わったら分からなくなるでなあ。』(嬉しい言葉、ありがとうございます。)

◆ 『嫁に来い』と命令された。(60歳の差ですし、遠慮させていただきます・・・。)

編集後記

“今年は運動をするための時間をつくるぞ!!”という目標を振り返り、(う～む)と押し黙る。確かに時間は作るようになった。でも、多くて1ヶ月に1日、いやいや1日と言ってもたった2時間程度のこと。

先日、夕方から自分の体調に異変を感じたのです。鎖骨の辺りから背中に痛みが走る。ツキーン!! ツキーン!! そのうち脇腹にも痛みが走るようになり、終いには眠れなくなりました。

夜中に湯船に浸かり、体を温め、再度布団に入ったがやはり痛みは取れていない。

いったいどうしちゃったのか?

翌日、治療院に行き指圧マッサージを受けながら言われた言葉が「完全に肋間神経痛だね。冷えと疲労が原因かな。あとは筋力の低下も関係するよ・・・ちゃんと運動して自分の体を大事にしないと歳をとってからもっとひどくなるよ」

(いや～ん、肋間神経痛って、私の体はおばあちゃん?)

介護保険のなんたらで介護予防って言っているよりも、自分の介護予防で筋トレしなくちゃ!(H)

7~12月号は心に残った“あの人の一言”でお送りします。